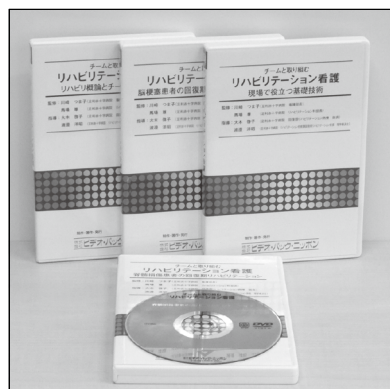


『チームと取り組む リハビリテーション看護』 リハビリテーション看護の かゆいところに手が届く！

監修：川崎つま子・馬場尊

定価：各巻 29,000 円＋税／4 巻セット 116,000 円＋税

発行：株式会社ビデオ・パック・ニッポン／TEL：03-3405-3173



医療の進歩から、日本の平均寿命は、現在世界のトップクラスにあるが、救命はできても、後遺症として、身体の機能障害をもちつつ生活をしている患者も多くなってきている。発症後の急性期医療だけでなく、リハビリテーションの充実が必要とされており、入院の早期から機能回復および自立に向けた積極的な援助を行うことが重要である。

この「チームと取り組むリハビリテーション看護」のDVDはリハビリの概論から、リハビリにかかわるあらゆる専門職の役割、それぞれの連携と継続的にかかわりの実際、リハビリ段階にある対象の状況が映像で確認できてわかりやすい。

近頃は、調べたことはすぐに画像で確認することができる。便利になった反面、学生の、状況を想像する力や物事を表現する力が弱いように思われる。見たことも、体験したこともない学生は、テキストから状況をイメージすることも難しい。この教材では、リアルな対象の状況が映し出され、看護初学者に対してもとてもわかりやすい。

看護師にとって重要な、援助時の情報収集、観察の方法、問題に対しての取り組み方、日常生活援助技術の方法などが詳しく提示されている。また、回復期の身体状況の変化における、各専門職からの見解が紹介され、協働していくことがわかる。臨地実習では、期間内に他職種との連携場面を体験することは難しい。この映像から、情報提

供や他職種が看護師へ求める内容が理解でき、基礎看護学の学習内容にも活用ができる。

映像内の看護計画立案、目標設定、評価では、事例説明のなかに日常生活状況が詳しくあり、具体的な計画へとつながると考える。また、これらの事例は、看護計画立案にも、技術練習にも活かすことができる。患者になりきることが難しい学生にも、麻痺や関節可動域の状況などイメージができ、映像をまねて患者役になることができると考える。回復段階に応じた目標の設定や評価、計画修正の必要性など看護過程の展開事例としても活用が可能である。

患者の心理面では、脳梗塞と脊髄損傷の2つの事例とも、障害後の心理的受容過程の段階により、表情が変化していく様子がよく出ている。心理的に前向きに変化してくると、対象の表情やことば、容姿にも変化が表れてくることが観察できる。学生は短い実習期間のなかで、その変化を捉えることは難しいので参考になる。

このDVDは、3つの点が優れている。1つ目は初学者でも患者をイメージできる点、2つ目は基礎看護学におけるチーム医療の実際、他職種の役割を学べる点、3つ目は機能状況に応じた援助技術、事例展開など観察する力を養える点である。このように、幅広い活用が期待できるおすすめ教材である。